

密閉型の7本を 鈴木“Daichi”秀行氏が チェック!

今回の試聴方法

今回は、自分がプロデューサーを手掛けた家入レオの「Message」と、普段からリファレンスCDにしているレニー・クラヴィッツの「ブラック・アンド・ホワイト・アメリカ」、それとカーリー・レイ・ジェプセンの「キス」というアルバムを、ソニーのCDプレーヤ

ーで再生して試聴をしました。

ヘッドホンアンプは使わずに、CDプレーヤーのヘッドホン端子に直接試奏機をつなげて、普段使っているソニーMDR-CD900STとビクターHAMX10というヘッドホンと比較しながら音色を確認しています。



←鈴木Daichi秀行氏は、写真上のソニーのCDP-D11というCDプレーヤーで試聴を行なった



すぎ ダイチ ひでゆき

PROFILE:ギターやベース、キーボードなどを操るマルチプレイヤーとして活動する他、作曲やアレンジ、プロデューサーなど、多岐に渡って才能を発揮しているクリエイター。モーニング娘。やYUI、mihimaru GT、SMAPといった大物アーティストの楽曲を手掛けている。

PJB H850

¥10,500

●問: ㈱ジーイーエスインターナショナル ●<http://www.pbjapan.com>

ベース特有の中低域や音程感がとても見えやすい



↑小型かつ軽いので、長時間の作業でもストレスを感じない

これはすごく軽くて小さいです。ベース専用ということですが、重低音がすごいと言っただけではなく、ベース特有の中低域がしっかりと聴こえて、逆に超低域あたりがすつきりしているので音程感がわかりやすいんですよ。ベースラインがとても見えやすいヘッドホンだと感じました。ベース録りのモニター用としていいですし、キックやスネアのアタック感も見えやすいので、リズム隊の録りに全般に最適です。

かと言って高域や中高域が抑えられているわけではなく、派手さはないですがレンジが広くて耳も疲れにくいので、ミックスでも使えます。どこかの帯域が飛び出しているようなバランスの悪さが一切なくて、すごく真面目な音という印象でした。

製品概要

“世界初のベース用ヘッドホン”というユニークなコンセプトを持つ、自らがベータテストでもあるフィル・ジョーンズ氏が開発したモデル。基本的にはオーディオ用として

の使用を前提に設計されており、ベース以外のレコーディングやミックスでも使うことができます。小型かつ軽量なので、圧迫感を感じさせない点も特徴だ。

CLOSED Type 5



SPEC

- 周波数特性: 20 Hz~20 kHz
- 感度: 96 dB
- 最大入力レベル: 1000 mW
- インピーダンス: 32 Ω
- ケーブル: 2mストレート (片出し、着脱式)
- 重量: 169g (ケーブルを除く)